



## 答 辞

春の柔らかな日差しを感じ、心華やぐ季節となりました。

私たちは4年あるいは6年前の春に、この武庫川女子大学の一員として期待と不安を胸に、自身の進むべき道への第一歩を踏み出しました。入学当初は生活の変化に戸惑うこともありましたが、諸先生方のご指導や、職員の皆様の親切なサポート、そして素晴らしい友人たちなど、恵まれた環境のおかげで学業に専念することができました。深く感謝申し上げます。

卒業を迎えた今、私たち一人ひとりの胸には、様々な想いが現れていることでしょう。思い返すと、この武庫川女子大学で様々な経験をさせていただきました。共通科目では専門科目以外で興味があることを学べて、他学科の人と繋がり、新たな刺激をもらうことができました。日々の授業では、各自の専門分野について多様な視点から深く学ぶことができました。さらに、体育祭や文化祭、丹嶺学苑での宿泊研修などの行事、また部活動やサークル活動、ボランティアや留学など様々な経験を通し、とても充実した大学生活であったと実感しております。

しかし、楽しいだけでなく、辛く苦しいこともたくさんありました。勉学は想像以上に学ぶ内容が多岐にわたり、定期試験では範囲の広さにも戸惑いました。設計課題のために朝早くから夜遅くまで学校に残り、友人たちと支え合い、時には泣きながら一緒に乗り越えてきました。大学生活の中で家族よりも長い時間を共に過ごした友人たちは一生の宝物です。今、私がここに立っていることができるのも、素晴らしい友人たちに囲まれていたからです。また、これらのことを成し遂げられたのは、先生方のご指導があつてのことだと深く感謝しております。

この大学生活の中で私は、恩師から頂いた「どれだけ時間をかけたかではなく、どれだけ考えたかが大事だ」という言葉が特に思い出されます。設計課題では、1課題約1ヶ月という短い期間の中で、一人ではどう考えても案が浮かばず思い悩むことがあり、考えることをやめた時もありました。苦しむ日々の中で、あの時頂いたこの言葉によって、考え続けなければ考えは生まれず、考え続けるという行為はその考えを聞いてくださる方がいてこそ成り立つものだと気づかされました。その日以来、私は考えを自分の中だけに留めず、先生方や友人たちに伝えるようになりました。そして今日まで、個々の考えを尊重し、より明確に綿密にその考えを表現することを助け、新たな考えを引き出してくださる先生方や、考えていることを互いに話し、聴くことで共有し、刺激し合う友人たちに支えられました。まさにここは、考え続けることのできる場所でした。

本日、武庫川女子大学を卒業する私たちは、これから社会に出る者、さらに進学して学問を極める者と、それぞれが決めた道を歩み始めます。それがどのような道でも、私たちがこの大学で過ごした日々は消えるものではありません。これからの生活の中で、この武庫川女子大学で学んだことを生かし、社会に貢献していく自覚を持ち、一人の人間としてその務めを果たしていきます。そして、私たちを支えてくださるすべての皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、日々精進してまいります。

今日まで私たちを温かく見守りご指導いただいた学長先生を始めとする諸先生方、職員の皆様に深くお礼申し上げます。

また、支え合い励まし合ってきた大切な友人に対し、私たちを見守りあらゆる面で支え続けてくれた家族に対して、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

令和2年3月21日

武庫川女子大学 生活環境学部／音楽学部／薬学部／看護学部

卒業生総代 生活環境学部 建築学科

藤原郁香

